

会場4-4【長野県】文化学園長野高等学校1年生 発表を見た方からの感想

- 婚姻やパートナーシップ制度は何か、しっかり定義があり分かりやすかったです。また違憲判決など社会の出来事を取り入れていて良かったです。個人モデル、社会モデルという難しい概念をしっかり理解できているのが素晴らしいと思いました。性の定義を広げるとするのは面白い考え方で、その根拠を示せていたので説得力がありました。
- 同性婚はともかく、パートナーシップ制度までも認めないことは個人の尊厳が考えられていないのではないかと思ひ、LGBTQ に対する認識が日本ではまだまだ足りないことが原因となっているのだろうと発表を聞いて考えることができました。発表の中で提示されていた戦力の話はとても分かりやすく、同性婚を認めることができない人にも説得力のある例だと思いました。ありがとうございました。
- 婚姻について、性はグラデーションであるにも関わらず同性婚が認められず、個人の尊厳が認められないという難しい問題を取り上げていて、すごいと思った。インクルージョンや社会的障壁、公認されないグリーフの問題まで目を向けていることに研究の成熟性を感じた。
- 日本での同性婚について、法律上の解釈や制度から始まり、専門的な領域に踏み込んで深く調査しており自分も勉強になった。疑問を持ったことについて当事者インタビューを行って学んでいたことも良かった。また、具体的な解決策や今後の課題もあげており良い発表だった。
- 同性婚について自分たちで調べている中で、自分たちの考えが深まってよいと思います。平等の考え方について今まで私ははじめに提示された二つの選択肢しか持っていませんでした。3つ目のバリアを作らないという考え方が新鮮なものでした。同性婚について自分はどうかと考える人は多いと思うけれど、それを憲法レベルにまで持って行って考えている点が問題を現実のものとして解決しようとしているのが感じられました。
- 民主主義社会である日本においてマジョリティーが同性愛の結婚について問題意識がなければ何も変わらないと思いました。同性婚が認められるようにするとともに結婚しなくても結婚と同じような効力をもつ制度の拡充が必要だと思います。同性愛についての偏見からカミングアウトできない現状も問題だと思います。同性愛に偏見がない人たちでコミュニティを構築してそこでインクルージョンな社会を作ればいいのかなどのことを考えました。素晴らしい発表をありがとうございます。
- さまざまな意見が飛び交う LGBT のことについて考察を含めながら発表できていました。さまざまな観点から考えさせられる発表でした。色々な意見を聞きながら学びを深めていけると良いですね。
- パートナーと家族になれる国はあるが日本に関して憲法を用いながら婚姻の規定を説明し、パートナーを家族として認める新しい制度や個人モデルや社会モデルを比べて区別することでこれからの問題や自分たちがどのような理解や見方でとらえればよいのか視聴者側に自信の考えを生じさせる発表になっているのが素晴らしいと感じた。

- 同性婚に関して、様々な視点から考察されていて良かった。実際に当事者にインタビューに行ったことによって、当事者や現状に対しての理解が深まっていて良かった。高齢の方と若年層の間での、同性婚に関する認識の差について、様々な根拠を立てていたので良かった。
- LGBT について現在の状況や過去の事例などをあげて詳しく説明しており非常にわかりやすい発表でした。LGBT は我々にとっても身近なジェンダー問題である為私達大学生も LGBT に関するジェネレーションギャップを埋められるよう努力していきたいと感じました。
- 同性婚について私も興味があり、調べたことがあります。発表にもあったように自治体規模のパートナーシップ制度では不十分だと思います。多様な人々が共生するために、同性婚を認めるのは必要不可欠です。また、公正を「個人に合わせて補助をする」のではなく「そもそもの壁、障害となるものを無くす」という考え方、また法解釈の余地の存在、好事例など、新しい発見がたくさんありました。大変勉強になりました。今後も活動の成果を聞きたいです。来年度から長野市に住むので、活動を見学出来たらなと思いました。
- 同性愛の問題について現状を確認し、法的根拠に基づいた論理的な指摘と改善案を考えていてしっかり研究されてきたのだと感じました。同性婚以外でジェネレーションギャップを埋めた先行例などの紹介があると、結論に説得力が生まれるのではないのでしょうか。また、法改正については選挙に行く人の年齢に偏りがあることも考慮する必要があるかもしれません。
発表に関して、先にそもそも婚姻とは何かという定義を示してくれたおかげで内容が理解しやすかったです。図の使い方も理解を手伝ってくれましたし、話し方もはっきりしていて聞きやすく、一番発表が上手でした。内容も発表ともに参考にしたいです。
- 私自身ジェンダーに関心があったので、とても興味深く聞かせていただきました。ジェンダーの認識にはジェネレーションギャップがあるというお話に、とても共感しました。私も、ジェンダーに関して祖母との間にギャップを感じるがあります。共通点を探していくことで受け入れていくことができるようになるかもしれないというお話が、これからつながっていきそうなどとても良い考え方だなと思いました。
- 今問題となっている同性婚の話を、調べ学習だけではなく、インタビューなども通してまとめておりわかりやすかった。平等と公正の違いについても触れていて「理解してあげよう」ではなく、「普通のことなのだ」と捉えられていて素晴らしいと思った。
- 一年生とは思えないほど堂々とした態度でハキハキと話していたため、とても聞き取りやすい発表でした。何事も決定する立場の役人の意識が低いと変わっていかないというのには共感しました。高齢の方との共通点を見つけるというのは想定外の発想で驚きました。ジェンダー問題の当人だけでなく、社会全体で考えていく必要がありますね。
- 個人的に、大学でジェンダーについての授業を受け、同性婚について自学をしていた時だったので、と

でも興味深いテーマでした。公正とは何かの考え方の例え方がとても分かりやすく、個人レベルではなく社会全体としての取り組みの重要性を感じました。そのためにも、自分たちの世代だけでなく、ジェンダーギャップに着眼し、それを乗り越えられる可能性があることを発見していて素晴らしいと感じました。

- マイノリティにとっての平等な機会とはどのようなものか、さまざまな観点から考えたり、インタビューを行ったりすることで考えを深化させていることがわかった。また、考える中でどんどん疑問を生み出しそれに対してもさらに追求しているところが良かった。
- 平等と公正さらに個人モデルの公正と社会モデルの公正というそれぞれの考え方がとても分かりやすく説明されていて聞いていてすんなり理解できた。法改正や教育、価値観など様々な視点から同性婚について考えられており素晴らしいなと思いました。平等と公正さらに個人モデルの公正と社会モデルの公正という考え方は多様性の考え方が必要だと言われている時代に大切な考え方だと思いました。解決策まで考えているのが素晴らしいと思いました。
- ジェンダーについて詳しく調べ、わかりやすくまとめられていました。憲法や判例を根拠に説得力のある発表をしていて大学の講義のようでした。とても見やすいスライドです。うわべの知識ではなく、当事者の方や支援団体の方と交流を持ち生の声を聞いたのは探究を進めるうえで非常に重要な経験ですね。
- なぜ、同性婚が日本で認められていないのかよく考えるきっかけになりました。私はニュージーランドのモーリス・ウィリアムソン元議員が2013年にニュージーランドの首都の議会で行った演説が印象に残っています。「同性婚を認めても世界は続いていくし、生活に悪影響はない。」といった発言をされていましたが、本当にその通りだと思います。日本ではいまだに、年代によって考え方が大きく異なっていることが大きな問題なのだと、今回の発表からわかりました。
- LGBTQの課題についての発表を聞いて、昔、発行された広辞苑には同姓を恋愛対象として見ることは異常であるといったことが書かれていることを知って衝撃を受けました。人々の認識の違いだけではなく、辞書でさえ同姓愛を異常だと示していたという事実を知り、世代間で同性婚に対する見方が異なることにも納得がいききました。でも、だからといって仕方がないで済ますのではなく、認知症と一緒にLGBTQについて学ぶ活動を取り入れる工夫がされており、知る機会を設置していることが良いと思いました。
- 同性婚など性に対する問題を、憲法や裁判所の判決などの様々に適した情報から論理的に考察しており、非常にレベルの高い発表だと感じました。「両性」が議論の余地のあることを、現在の性の価値観や、自衛隊という別の例から説明しており、とても分かりやすかったです。また、発表を聞き、ジェネレーションギャップが昔と今の教育の違いによるものであるのなら、大人に対しても適した教育が今からでも必要になってくると考えられるようになりました。その例として、共通点をうまく利用することで高齢者にLGBTを考えてもらうきっかけをつくったものが挙げられており、今からでもジェネレーションギャップを埋めることが実際に可能なのだと分かり、とても勉強になりました。